

女性医師の就労・復職支援

院内に相談窓口設置

病後児保育室も開設

北大、来年度
本格稼働

北大病院（福田諭院長・九百四十六床）は、女性医師が産後や育児などに取組みながら継続的な勤務や復職ができるようサポートする相談窓口を設け、二十三年度から本格スタートする。病後児保育室オープンによる支援、女性医師の就労実態調査、シンポジウム開催で啓発活動にも力を注ぐ。

近年、医学部卒業生の組みにばらつきが見られ、三割が女性という中、同院に勤務する、およそ五百人の医師の一五％が女性。これまで仕事と家庭を両立できる支援や配慮は、各医局の裁量に委ねられてきたため、取り

師と保育士のスタッフ二人として、院内病後児保育室「ぶらん」（一日定員四人）を二月開設し、女性医師のみならず男性医師や看護師も利用できるようにした。

院全体で取り組む。第一内科の清水薫子医師と保育士のスタッフ二人として、院内病後児保育室「ぶらん」（一日定員四人）を二月開設し、女性医師のみならず男性医師や看護師も利用できるようにした。

職研修▽子どもを持つ女性医師の勤務環境▽保育士の悩みや市内保育所の照会―などの相談に応じ

院全体で取り組む。第一内科の清水薫子医師と保育士のスタッフ二人として、院内病後児保育室「ぶらん」（一日定員四人）を二月開設し、女性医師のみならず男性医師や看護師も利用できるようにした。

院全体で取り組む。第一内科の清水薫子医師と保育士のスタッフ二人として、院内病後児保育室「ぶらん」（一日定員四人）を二月開設し、女性医師のみならず男性医師や看護師も利用できるようにした。

局、医学生に実施したアンケート調査の結果を近くまとめ、就労環境の実

態や男女による認識の違いを把握し、今後の事業展開につなげる考え。清水医師は「出産や育児で一旦現場を離れてしまうと、医療の進歩についていけるかという不安などで職場復帰が難しい。病院としても大きな損失になる」と問題提起。

築いてきたキャリアが途切れないよう、短時間労働など継続して働ける環境や、インターネットによる自宅学習ほか復職研修プログラムを整備するとともに、男性医師を含め院内全体で理解を深めるよう、シンポジウム等でアピールする。